

Title	『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ
Author(s)	河上, 肇
Citation	經濟論叢 (1916), 3(3): 456-458
Issue Date	1916-09-01
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/127074">http://dx.doi.org/10.14989/127074</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

第三號

第三卷

## 論說

聯合國經濟同盟<sup>ニ對スル</sup>我國ノ態度

國防稅ノ當否(二)

でがめつぎ・ひゆーむノ經濟學說(五)

『座』ノ研究(二)

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係<sup>ヲ論ズ</sup>

資本ノ眞概念ノ發展(三、完)

## 雜錄

小野塚牧野兩博士ノ新著

不換紙幣流通ノ根據<sup>ニ就テ</sup> 福田<sup>博士ニ答フ</sup>

びゆつひあーノ經濟<sup>發達</sup>階段<sup>ニ非ズ</sup>說<sup>ハ其創</sup>

最低賃金ノ制度ニ就キテ

日英ノ物價

手ノ器用ト其脩養

『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

『瀧本誠一<sup>氏ノ草莽</sup>危言<sup>ニ就テ</sup>摘義<sup>ヲ</sup>解題<sup>ニ就テ</sup>』補遺

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

文學博士 三浦 周行

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學博士 山本 美越乃

法學士 河田 嗣郎

法學士 財部 靜治

法學博士 河上 肇

鈴木 券太郎

(載 轉 禁)

# 『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

河 上 肇

『通俗經濟文庫』刊行ノ計畫アルコトハ前號ノ本誌ニ福田博士ノ既ニ紹介サレタ所デアルガ、其後ソノ卷ノ一ガ公刊サレタノデ、吾々モ實物ニ就テ略ボコノ叢書ノ様子ヲ知り得ルニ至シタ。仍テ更ニ紹介旁々コノ卷ノ一ヲ手ニシテ吾々ノ見々所、感々所ヲ簡單ニ述ベテ見タイト思フ。

卷ノ一ニハ『金持重寶記』以下合計八部ノ書籍ガ收容サレテ居ルガ、其中デ余ガ特ニ興味ヲ感ジタノハ、卷頭ニアル『金持重寶記』ト後ノ方ニ收メテアル『町人身體はしら立』及ビ『町人身體はしら立返答』デアル。

『金持重寶記』ハ初メ貞享四年(一六八七年)ニ『金銀萬能丸』トシテ出版サレタモノダト云フ

ガ、其ヲ見ルト、中ニ黃金萬能論ガ頻リニ唱ヘテアル。本文庫ニ就イテ言ヘバ、其論ガ一九頁カラ五二頁ニ亘ツテ居ルガ、其ハ

『世の中は黃金にてこそ、あめつちもそなはり、萬物みな、これがなす所にして、人間最第一の急務にて侍る也。』(一九頁)

トカ、又ハ

『さかく金は萬物の長にして、乾坤の寶、無上如意寶珠にて候なり。』(二二頁)

トカ、或ハ又

『金をもてゆく行は極樂世界も遠からず、貧しきものは、たとへば、あやまりて極樂に行くことも、元來かれずきの極樂なれば、諸傍輩の出合あしくなりて退出されぬべし。』(三〇頁)

ト云フ調子ノ皮肉ナモノデ、當時ノ世態人情ヲ知ルノ一端トモナリ、甚ダ興味アルモノデアル。

『身體柱立』ハ明和七年(一七七〇年、即チあだむ・すみすノ『國富論』ノ出ル六年前)ノ開版ニ成ルモノダト云フガ、ソノ中ニハ

『身上輕き家とくなき人は、先妻子無用たるべき者なり。』(二四九頁)

『子は三界の枷と古人のいへる、まことに身上かかるき人、身體相繼のためとて、前後の辨へなく、他人にそやされ當ぶんの悦び、あてなしに妻子をそろへ、はじめのささやき後のとよみ。』(二五五頁)

ト云フヤウナ數十年後ノなるさす人口論ヲ聯想

セシムルニ足ル文字ナドモアツテ、總ジテ消極的經濟論ガ述ベテアルガ、之ヲバ、其駁論トシテ出版サレタ『身體柱立返答』ト對照シテ讀ム時ハ、矢張り當時ニ於ケル民間經濟思想ノ一斑ヲ知ルノ便リトモ爲ツテ、吾々ハ頗ル興味アルコトニ思フノデアル。

余ハ『日本經濟叢書』ノ刊行ヲ以テ、日本ノ經濟學界ニ於ケル有益ナル近來ノ大事業ト信ジツアル者デアアルガ、今其姉妹叢書トシテ新タニ計畫サレタル『通俗經濟文庫』ヲ見ルニ、差當リ其卷ニ依リテ察スル所ニ依レバ、コレモ亦タ極メテ有益ナル計畫ダト信ズル。若シ源流ニ溯ツテ日本人ノ經濟生活及ビ經濟思想ヲバ親シク研究セントスル者アラバ、本叢書モ亦タ其研究ヲ助成シ容易ニスル上ニ於イテ少カラヌ貢獻ヲ爲スモノデ有ラウ。本文庫ノ經濟學上ノ價值ニ就イテハ、福田博士ガ既ニ遺憾ナク前號本誌ニ紹介サレテ居ルケレドモ、余ハ其計畫ノ成ルヲ悦ビ、且其計畫ノ全部ガ無事ニ遂行サレンコトヲ祈ルノ餘リ、偶々其第一卷ヲ手ニスルニ及ビ

テ、更ニ一言ノ蛇足ヲ禁ジ得ザリシ者デアル。因ニイフ、本文庫收容スル所ノモノハ瀧本誠一君年來ノ尋討ニカカル諸書ヲ主トスル由ナレドモ、毎卷ノ解題ハ『日本經濟叢書』ト異リ、高野彌一君之ヲ擔當サレテ居ル。今其解題ヲ見ルニ、各篇ノ記事論說ノ要旨ヲ掲グルト同時ニ、之ガ頁ヲ示シタルハ、讀者ノ爲メ便益尠カラザルベシト思ハル。但シ、例ヘハ一九頁ヨリ五二頁ニ至ルト云フコトヲ（一九頁・五二頁）ト記載シアルハ如何ニヤ、寧ロ（一九頁―五二頁）ナドトサレタル方宜シカラント思ハル。些事ナレドモ事ノ序ニ記シ置ク。

猶最後ニ一般讀者ノ爲ニ一言シ置カンニ、本文庫ノ『小引』ナルモノヲ見レバ、其第二項ノ一節ニ『現代ノ實業家、政治家、教育家、操觚者、學生及實業界ノ徒弟諸君ガ、直チニ取リテ參考ノ料ニ資ス可キモノハ、收メテ本文庫ニ在リト云フモ不可ナシト信ズ』トアレドモ、人アリ若シ此文句ヲ解シテ本文庫ハ、例ヘバ現代ノ實業家ニ取リテハ金儲ノ虎ノ卷トナリ、又學生

雜錄 『瀧本誠一氏ノ草茅危言摘義解題ニ就テ』ノ補

ノ爲ニハ受験上好個ノ參考書トナルモノナリト云フニ在リトセンカ、ソハ恐ラクハ誤解デ有ラウ。余ハ本文庫ヲ以テ、過去ニ於ケル日本人ノ經濟思想及ビ經濟生活ヲ眞ニ理解セントノ學問的希望ヲ有スル者ニトリテハ實ニ好個ノ資料タルベキモノト信スレドモ、果シテ其ガ、例ヘバ『實業界ノ徒弟諸君』ニトリテ『實業之日本』式諸雜誌以上ノ價值アルヤ否ヤニ至ツテハ、固ヨリ保證シ得ザル所デアル。